「福島ホープス」参入 プロ野球BCリーグ

きょうから合同トライアウト

プロ野球・BCリーグチームへの入団を目指す県内の高校、大学の選手らは15、16の両日、群馬県伊勢崎市の上武大で実施するリーグ入団テスト「合同トライアウト」に参加する。リーグには来春、本県初の球団「福島ホープス」が参入する。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの本県復興を後押しできる活躍を夢見て狭き門に挑む。

双葉高の部員をはじめ、県民に元気を届ける決意で福島ホープス入団を目指す長嶺選手

双葉高の仲間の分も

長嶺 拓未選手
若松商高3年

若松商高三年の長嶺拓未（たくみ）選手（一八）＝会津若松市＝は卒業後、大学で野球を続けるつもりだったが、福島ホープスの誕生を知り、プロの世界に飛び込む決意を固めた。

原発事故でサテライト校での運営が続く双葉高の野球部員と今春、一緒に合宿をした。苦労の多い避難生活を送りながらも懸命に野球に打ち込む姿に心を動かされ、「自分も頑張らなくては」と感じた。今も双葉高の部員と連絡を取り合う。先日は「トライアウトで頑張れ」と励まされた。

「『仲間』の分まで憧れのプロの舞台で勝負をしたい」

チームでは四番、外野手を務めた。トライアウトに向け、野球部の指導者や、既に引退した三年生部員の協力を受けて練習した。「応援してもらった多くの人に恩返しするためにも、生まれ育った県内でプロという夢をかなえる」と誓った。

夢追い さらなる高みへ

津波犠牲 先輩のため

津波で亡くなった先輩のためにもプロ入りを誓う佐々木選手

佐々木 憲選手
東日本国際大4年

東日本国際大四年の佐々木憲選手（二）＝いわき市＝は震災の津波で命を落とした先輩への感謝を胸に福島ホープス入団を目指す。

宮城県出身で、高校時代は仙台育英高の二塁手として活躍した。夏の甲子園でベスト16入りを果たした実績もある。三年八カ月前、同大学への入学が決まり、野球部の寮に入って数日後に震災が起きた。高校の野球部の先輩で宮城県石巻市に住んでいた斎藤泉さん＝当時（二三）＝が大津波の犠牲になった。

良き相談相手だった。進学などでいつも助言をもらった。ショックを乗り越え野球に打ち込んだ。それが先輩の恩に報いることだと信じて―。

斎藤さんをはじめ野球人生を支えてくれた多くの人のために、強い決意を持ってトライアウトに臨む。

プロで力を蓄えたい

将来のNPB入りを目標にBCリーグに挑戦する村上選手

村上 昂暉選手
尚志高3年

尚志高三年の村上昂暉（たかあき）選手（一七）＝郡山市＝は「プロのチームで打撃も守備も成長したい」とトライアウトに参加する。

志望チームは定めていない。リーグのチームに入るのが今の目標だ。ただ、先も見据える。しっかりと力を蓄え、将来は日本野球機構（NPB）のプロチーム入りを目指す。

高校時代は外野手兼一塁手で、打線ではチームの中軸として本塁打を放った。スイングの強さに定評があり、目指すはホームランバッター。「一つのプレーで観客を元気にするのがプロ選手。甘い世界ではないが、少しでも近づいていく」と話している。

プレーで県民励ます

長打力と強肩をアピールして入団を狙う久岐選手

久岐志衣磨選手
福島工高3年

福島工高三年の久岐志衣磨（しいま）選手（一八）＝二本松市＝は「地元球団で頑張る自分の姿を県民に見てもらうのが目標」と、福島ホープスを第一志望に挙げる。

高校入学当初からプロ野球への憧れを抱いてきた。主将、捕手としてチームをけん引した。トライアウトでは持ち味の長打力と強肩をアピールするつもりだ。常に上を目指して頑張っていれば、必ず結果はついてくると信じている。

「つらい時、苦しい時にプレーで励ませる選手になりたい」。震災、原発事故の影響が今も残る中、県内の盛り上げに少しでも役に立ちたいと考えている。

トライアウト参加がドラフト対象の条件

合同トライアウトは15日に1次テストとして50㍍走のほか、投手はピッチング、野手は遠投、守備、フリーバッティングをする。合格者は16日、シートノックやシート打撃などの2次テストに臨む。

合同トライアウトは23日にも関西会場として神戸市の神戸総合運動公園で実施される。

今月末に予定されているドラフト会議の対象選手となるためには、トライアウトに参加して1次テストで合格する必要がある。ドラフトでは、出身地や野球歴から地元選手と判断された場合、球団がその選手の優先指名権を保有できる。

福島ホープスはチーム編成に当たり、「県民球団として、できるだけ県内選手を獲得したい」との姿勢を示している。

福島ホープスはこれまで、既存選手を対象にした分配ドラフトと、他チームからの移籍によって選手9人の入団が内定している。